

1. 仏教の基本的立場

- 1-1 中道 二つの極端を離れた道。 八正道の教え。
- 1-2 縁起 存在の構造の把握。 流動する存在論としての「縁起」
- 1-3 三法印 諸行無常・諸法無我・涅槃寂静。 他の宗教と区別される「仏教の特質」

2. 第2回目 仏教講座の復習 (釈尊在世当時のインド中北部の地図を参照のこと)

2-1 釈尊の生涯

2-1-1 釈尊の誕生 今から約2500年前。 ルンビニーの園。 粹。

2-1-2 釈尊の王子時代 カピラ城。 粹。

2-1-3 釈尊の出家 29歳の時。

2-1-4 釈尊が城を出て向かった先。 粹。

王舎城(ラージャグリハ)へ行く前にヴァイシャーリーに寄った。

3. 第3回目 仏教講座はヴァイシャーリーでの求道の旅から。

(29歳の時に城を出て、開悟するまでの6年間)

3-1 バラモン系

3-1-1 アーラーラ・カーラーマ、 ウツダカ・ラーマプッタ (中阿含経)

3-2 六師外道 (沙門果経、南伝大蔵経6)

3-2-1 プーラナ・カッサパ

3-2-2 マッカリ・ゴーサーラ

3-2-3 アジタ・ケーサカンバラ

3-2-4 パクダ・カッチャーヤナ

3-2-5 サンジャヤ・ベーラッティプッタ

3-2-6 ニガンタ・ナータプッタ

3-3 仏教の立場

修定主義の縁って立つ転変説と苦行主義による積集説の両者を乗り越えた。
相互依存の関係によって成り立っていると観る縁起の立場。

4. 中道

快樂と苦行との二つの極端を離れた中道、すなわち内容的には八正道の教え。

「中」とは。

5. 縁起

存在の構造の把握 —— 流動する存在論としての「縁起」 ——

仏教の真理観：「覆われてあらざること」を以って真理であると考ええる。

縁起とは、「縁りて」「起こること」 条件的生起

存在自体と存在の法則と人間の生き方とが不可分の関係である。